

平成23年度ユニバーサルデザイン（UD）教育の取組

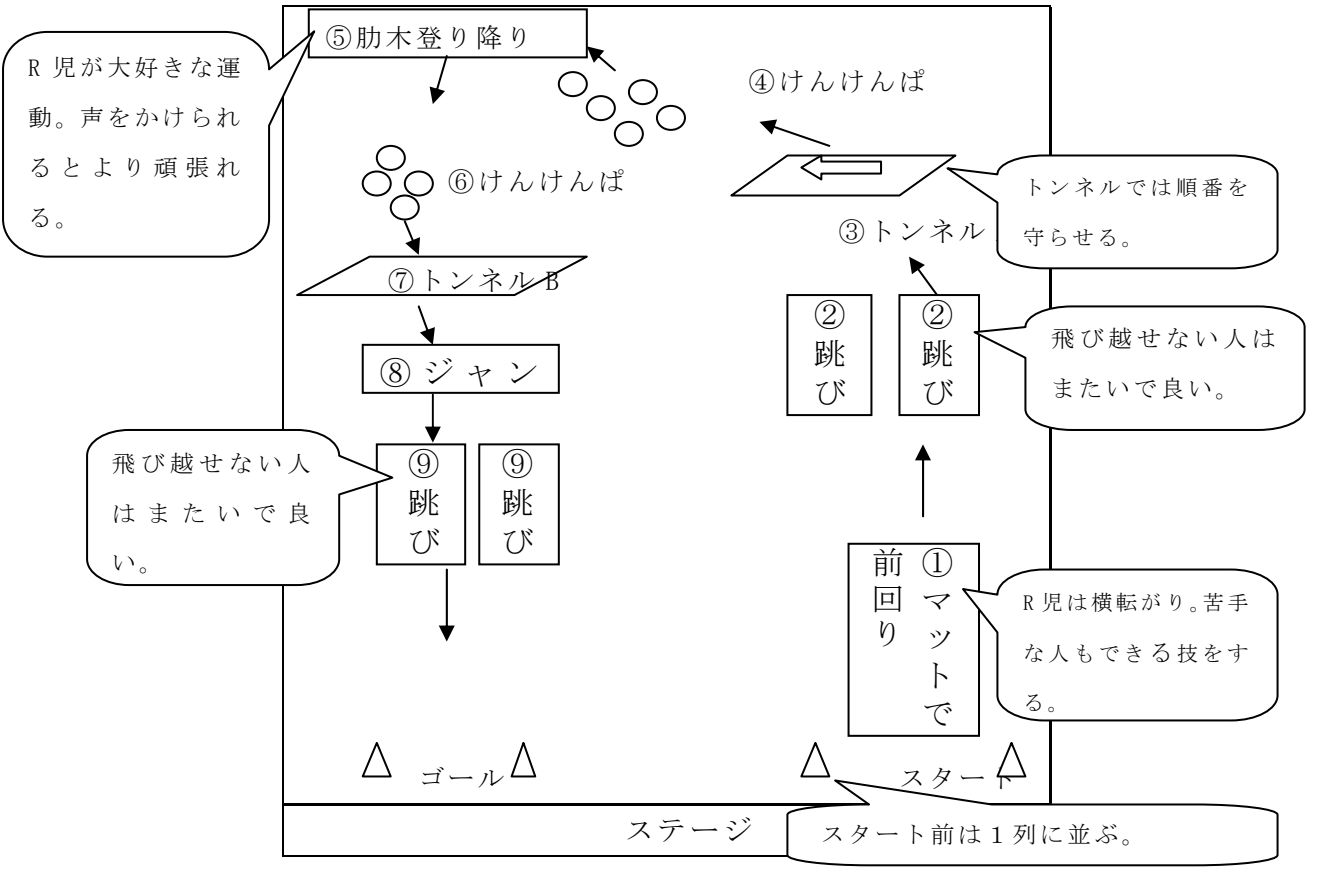
1 学校名	大町町立大町小学校		
2 所在地	大町町大字大町5763番地		
3 校長名	山口 浩		
4 学級数 児童生徒数	14学級 373人	5 実施学年 児童生徒数	1年 61人

6 取組のねらい

- 特別支援学級の友達のことを理解し、一緒に各種の運動を楽しむことができる。
- みんなが思いやりの気持ちを持ち、障がいのある人のことを理解して少しの工夫をすることで、障がいのあるなしに関わらず一緒に運動や生活が楽しめることを理解する。

7 取組の実際 体育「サーキット運動をしよう」（1年1組；2月8日実施, 1年2組；2月10日実施）
（特別支援学級児童 R 児は両方の授業に参加）

- 学習活動
 - ① あいさつ→準備運動
 - ② サーキット運動のコースの説明、
運動の約束「Rくんやその他の友達のがんばりを見つけよう」
 - ③ サーキット運動をする。
 - ④ 学習のふり返り（振り返りカードに感想を書き、発表する。）
 - ⑤ まとめ→あいさつ



○活動の様子



① 友達の励ましを受けて跳び箱に乗る。② 励ましを受けてマット運動をする。



③ 友達と一緒にトンネルくぐり。友達が自然にトンネルを支えている。



④ R 児の好きなろくぼく。

横に進むので友達は励まし役。

たいいく **サーキットうんどう** ふり回りカード
() 年 () ぐみ ()

1. きょうの学しゅうは、たのしかったですか？

(○でかこんでね)

とてもたのしい たのしい まあまあたのしい

あまりたのしくない

⑤ ふりかえりカード

【児童のふりかえりカードより】

- ・ Rくんが〇〇ちゃんといっしょにろくぼくのぼりをがんばっていました。
- ・ Rくんがトンネルくぐりをすごくがんばっていました。
- ・ 〇〇ちゃんと△△ちゃんがRくんのおせわを上手にしていた。

8 取組の成果と課題

- ・ サーキット運動は子供たち全員、とても大好きな運動である。子供たちが楽しくどんどん運動する姿を見て、R児も支援員や教師の支援をほとんど受けず友達の流れに入って、活動することができた。友達の姿自体がR児にとってよいお手本になっていると言える。
- ・ それぞれの用具を2つずつ設置したことで、競争ではなくそれぞれが自分のペースで進めることができた。また、一緒に運動しながら上手に声かけができていた児童があった。
- ・ ボール運動など他の学習でもR児とともに楽しめる工夫をしていきたい。
- ・ 「ユニバーサルデザイン」について、道徳などでも学習を行い、その大切さについて感じとらせたい。

平成23年度ユニバーサルデザイン（UD）教育の取組

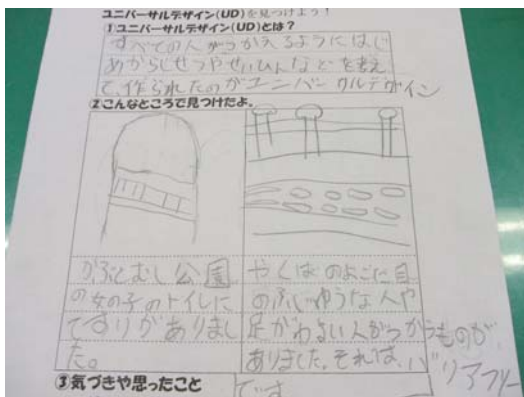
1 学校名	大町町立大町小学校		
2 所在地	大町町大字大町5763番地		
3 校長名	山口 浩		
4 学級数 児童生徒数	14学級 373名	5 実施学年 児童生徒数	2年 60名

6 取組のねらい

- ユニバーサルデザイン（UD）という言葉について知り、その考え方を理解する。
- UDの考え方で作られた施設や設備・製品を実際に見たり写真で見たりして、UDについての理解を高める。

7 取組の実際（2月2日（木）2校時、2月6日（月）5校時の計2時間で実施）

- ① UDとバリアフリーの考え方の違いを、手作りのプリントで学ぶ。
- ② 現地に行って、UDの考え方で作られた施設などを見学して、UDやバリアフリーについての理解を高める。



8 取組の成果と課題

- ・ UDという言葉やそんな考え方があると多くの子が分かった。
- ・ 実際に見ることで、UDの理解が深まった。
- ・ 製品の実物を使用できたら、もっと分かりやすかった。

平成23年度ユニバーサルデザイン（UD）教育の取組

1 学校名	大町町立大町小学校		
2 所在地	大町町大字大町5763番地		
3 校長名	山口 浩		
4 学級数 児童生徒数	14学級 373名	5 実施学年 児童生徒数	3年 60名

6 取組のねらい

- 車いす、高齢者疑似体験や体の不自由な人の話（ビデオ視聴）を聞くことを通して、福祉について関心を持つ。
- わたしたちの身の回りには、様々な障害がある方や、体が不自由な高齢者の方がおられることを知り、障害のある方やお年寄りの立場になって、どのような行動をとったらよいか考える。

7 取組の実際〔3年1組…1月25日（水）、3年2組…1月31日（火）実施〕

（1）車いす、高齢者疑似体験（2時間）

大町町社会福祉協議会より、車いすと高齢者疑似体験教材を借用し、子どもが実際に体験活動を下記のように行った。

① グループ編成及び

	前 半	後 半
A・B・C・Dグループ	車いす体験	高齢者疑似体験
E・F・G・Hグループ	高齢者疑似体験	車いす体験

② 体験コース（体育館から南校舎までの折り返し）

体育館フロアー → 出入り口 → 下りスロープ → 渡り廊下 → 南校舎
→ 渡り廊下 → 上りスロープ → 出入り口 → 体育館フロアー



（車いす体験）



（高齢者疑似体験）

（2）言語障害のある方の話のビデオ視聴 及び 感想書き（1時間）

「子どもたちに伝えたいUD」「未来につながるUD」

上の2つの題目で、言語障害がある方の話を視聴した。障害のある方の思いや願いなどを子どもたちなりに知らせるとともに、話をもとにこれからの自分はどうのような行動をとればよいか、を考えさせた。

その後、「体験活動」及び「ビデオ視聴」の感想を書かせた。

(3) 児童の感想

① 車いす・高齢者疑似体験

わたしは、初めて車いすに乗ってみたら、重たくて、うでがとてもきつかったです。下り坂や上り坂があったり、かいだんをのぼったりするとき、一人だととてもたいへんだなあと思いました。車いすでまがるときなど、とてもむずかしかったです。車いすに乗っているひとは苦ろうしているんだなあと思いました。

次に、お年寄り体験をしました。足が重たかったし、足がまがらなかつたし、耳が聞こえないし、目が見えなかつたです。歩くことしかできなかつたので、お年寄りや体が不自由な方はかわいそうだなあと思いました。

車いすに乗って思ったことは、車いすで歩くと車りんを回してつかれたり、だんがあるところは落ちてびっくりしたりしました。とてもつかれました。

お年寄り体験をして思ったことは、目は少ししか見えないし、耳もあまり聞こえないし、足も重くて歩きにくくて、お年寄りになるとこんなにきつくなるんだなあと思いました。

ぼくは、お年寄り体験をして、お年寄りは目があまりみえなかつたり、足や手が重かつたり、たいへんできついんだなあと思いました。

ふつうぼくたちだったらまっすぐに行けるけど、車いすはまっすぐ行けなくて、手をつかうからとても手がいたくて、とてもたいへんでした。

それでぼくは、お年寄りや車いすに乗っている人たちがこまっているときは、たすけてあげようと思いました。

② ビデオ視聴

ぼくは、体が不自由な人の話を聞いて、不自由な人は頭では考えられるけど、声が出ない、しゃべることがむずかしい人は、とても悲しいんだなあと思いました。車いすにも乗っているから、まわりを走ったり、歩いたりできないからつらいんだろうなあと思いました。

話では、ごみ箱がじゃまでエレベーターに乗りおくれたりする話があったから、その時見つけたら、じゃまな物があったらどかしたいなあと思いました。

本当に体が不自由な人はたいへんなんだなあと思いました。

体の不自由な人の話を聞いて、わたしは、とてもくろうして生活しているんだなあと思いました。もし、体の不自由な人がいたら、見るだけでなく助けてあげようと思います。

体が不自由な人も同じ生きている人だから助けあっていけたらいいなあと思います。

話せない人でも一生けんめいがんばってつたえようとしているし、歩けない人でも一生けんめいがんばって歩こうとしている人がいます。わたしたちはそんなことないけれど、何かの役に立つようにささえあっていこうと思います。

体の不自由な人の話を聞いて思ったことは、みんなとちがってはいない、ということです。体がけんこうな人も不自由な人も特別ではないということです。

でも、みんなが楽しくくらししていけるように、何か手つだいしたいと思います。

8 取組の成果と課題

(1) 成果

- 今回の取組を通して、児童の感想からも伺えるように、福祉についての関心を持つことができた。ビデオを通して、体に障害がある人の気持ちや思いを知ることができた。また、車いすや高齢者疑似体験活動を通して、自由な動きができない、操作が難しい、怖いなど、障害がある人やお年寄りの大変さや、自分は日ごろ何不自由なく何気なく生活しているんだ、ということを実感することができた。

また、体に障害がある人やお年寄りのために何かしてあげよう、何かしてあげたい、何かしてあげなければ、とする心情も芽生えてきた。

(2) 課題

- 感想の中には、「かわいそう」「自分はなりたくない」などという、まだ浅い考えしか持てないでいる児童が多数いるのが事実である。今後、上級生になるにしたがって深い考えをし、広い視野を持つことのできる子どもを育てることが大切だと考える。

各学級や学年が、また、担任個人の考えで指導していくには限度がある。そのためには、児童生徒の発達段階に應じたり、各教科等、道徳、学級活動、総合的な学習の時間を関連させたりすることを踏まえた、学校全体としての「UD教育指導計画」を立てて取り組んでいくことが必要であろう。また、UDのための環境作り、整備も必要であると思う。

さらに、学校だけで取り組むことなく、地域の方々や行政当局と連携をとりながら、学習活動に取り組ませることが大切である。

平成23年度ユニバーサルデザイン（UD）教育の取組

1 学校名	大町町立大町小学校		
2 所在地	佐賀県杵島郡大町町大字大町5763番地		
3 校長名	山口 浩		
4 学級数 児童生徒数	14学級 373名	5 実施学年 児童生徒数	4年2組 29名

6 取組のねらい

物語文の学習において、特別支援教育の視点に立ったユニバーサルデザイン化した授業を導入すれば、読み取りを苦手としている児童にも理解させていくことができる。さらに、理解したことをもとに、自分の言葉で表現していくことができるようになっていくと考えて授業のユニバーサルデザイン化に取り組んだ。

7 取組の実際

単元「ごんぎつね」において、UDの視点を採り入れた物語文の指導を行った。授業のUD化の要件として、①授業内容を焦点化し、教えることを絞り込む。②授業内容を視覚化して、文字だけでなく目でもつかむことができるようにする。③授業を共有化して、全員の授業参加度を高めるようにする。以上の三つを組み入れるようにした。①授業内容の焦点化を具体化したものとして、五つの自力読みの視点を設定した。

物語の前話の場面について説明する。「ごんぎつね」の前話は、物語の展開に関わる重要なことが書かれている。わずか13行からなる場面であるが、読み間違いをしようところである。そこで、前話の場面設定を正確に捉えさせるために、考えるもととなるイラストを用意して文章の視覚化を図って考えさせた。



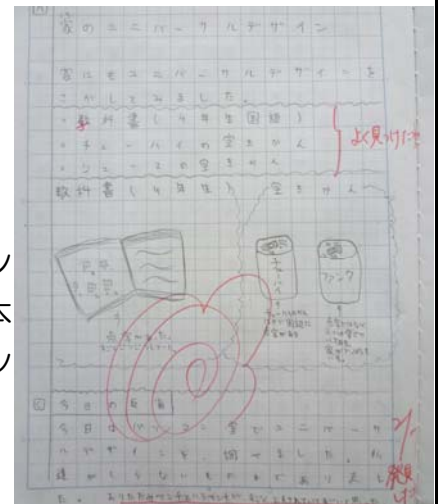
上記のような授業を行った。文字を視覚化したイラストの活用は、読み取りを苦手としている児童の興味を引き出すことができた。今までは、読むのを嫌がる児童であった。ところが、興味の喚起とともに本文の言葉に注目するようになり、言葉に合わせてイラストを操作していくことができるようになった。また、自分の言葉で説明することができるようになっていった。国語の授業で活躍することのできなかった児童であったが、国語が楽しいと言うように意識が変わった。

8 取組の成果と課題

全八場面について、言葉を視覚化したUDの授業を行った。授業後のアンケートからは、特別支援が必要な児童を含む全児童の意欲を引き出し、理解につなげることができたことがわかった。読み取る力をつけるために、視覚化を採り入れたUDの授業は効果的である。

平成23年度ユニバーサルデザイン（UD）教育の取組

1 学校名	大町町立大町小学校		
2 所在地	大町町大字大町5763番地		
3 校長名	山口 浩		
4 学級数 児童生徒数	14学級 373名	5 実施学年 児童生徒数	5年 70名
6 取組のねらい	<p>○ だれもが住みやすい社会について考え、公平な態度を持つとする態度を育てる。</p> <p>○ ユニバーサルデザインとは何かを理解させ、身の回りにあるユニバーサルデザインを見つけさせる。</p>		
7 取組の実際	<p>【道徳の時間における実践（各学級での実践）】</p> <p>○ 主題名・・・公平な社会に（公平・公正に）</p> <p>○ 資料名・・・「ユニバーサルデザイン」光村図書</p> <p>○ 授業の展開</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 資料を読んでユニバーサルとは何かを知る。 2 どんなところがユニバーサルデザインなのか話し合い、その工夫がなかったらどんな不便が生じるか話し合う。 3 身の回りにあるユニバーサルデザインを見つける。 4 だれもが公平に生活できる社会にするためにどんなことをすればよいか話し合う。 <p>○ 授業の実際</p> <p>〈児童に紹介したユニバーサルデザイン例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上下式レバー水道蛇口 ・大きな文字や点字のボタン表示（電気器機） ・高位置と低位置にあるエレベーターのボタン ・多目的トイレ ・段差のないバス乗降口 など <p>〈児童が見つけたユニバーサルデザイン〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高位置と低位置にある自動販売機のボタン ・音の鳴る信号機、点字ブロック ・点字本 ・左利き用のはさみ ・障害者用駐車場やシルバート 		



〈授業後の児童の感想文より〉

ユニバーサルデザインっていつも身近にあるんだなと思いました。家に帰って早速ユニバーサルデザインの物はないかと探したところ、見つかりました。食器をボタン一つできれいに洗って乾燥させるものや、トイレの手すりもだと思いました。もっとたくさん見つけてみようと思いました。

8 取組の成果と課題

○ 成果

ユニバーサルデザインとは何かを児童は理解することができた。自分たちの生活の中からユニバーサルデザインを見つけようとする姿が見られた。インターネットで調べてきた児童もいた。

ユニバーサルデザインは誰もが公平に生活できる社会にするためのものであることを知り、自分自身の生活も安全にまた便利になっていることに気がついた。普段何気なく、当たり前のように生活している児童も、社会にはだれもが公平に安全にらせる工夫があることを考えていくきっかけになったと思う。

○ 課題

ユニバーサルデザインは「障害者」や「老人」のためのものとする児童もいる。ユニバーサルデザインは社会にクラス全ての人のものであることをしっかりと意識させたい。だれもが公平に安全にらせるという社会は差別もなくすことにもつながることを伝え続けていく必要がある。

平成23年度ユニバーサルデザイン（UD）教育の取組

1 学校名	大町町立大町小学校		
2 所在地	大町町大字大町5763番地		
3 校長名	山口 浩		
4 学級数 児童生徒数	14学級 373名	5 実施学年 児童生徒数	6年 63名

6 取組のねらい

- ・自分の周りには、いろいろな人がいて、いろいろな考えや、いろいろな方法があることに気づくことができる。

7 取組の実際

◎障がい理解のためのワークショップ

- ・指導者・・・井手将文 先生（佐賀大学）、車いすインストラクター（3名）、車いす補助員（3名）、担任2名

車いすインストラクターの3名の方々（障がい者のみなさん）を目の前に、普段はあまり接することがないので、何か不思議な戸惑いがあったようだった。しかし、車椅子でのWiiや顎と口を使ってのスーパーマリオゲーム、顎を使ってのぷよぷよゲームやパソコン操作をインストラクターの方々の指導を受けながら体験する中で、そんな気持ちもなくなり、自然とふれあうことができた。



8 取組の成果と課題

- ・体験を通して、障がい者の方の不自由さやがんばり、いろいろな工夫で自分達と同じことができることに気づいたようだ。
- ・今後、UDへの関心が深まるように、いろいろな体験活動や調べ学習等を取り入れていきたい。